

前件に依て考ふれば、當社四條後院の境内に坐し事明かなれど、其院頽敗せし後は、さうくとも云がたし、

神位

三代實錄、貞觀二年六月十五日甲午、授後院無位準神從五位下、同七年六月四日癸丑、授後院準神從五位上、同十年十一月十七日丙午、授後院從五位上準神從四位下、同十六年八月四日庚申、授後院從四位下準神從四位上、日本紀略、天慶三年九月四日、奉贈左京正四位上準神從三位、

○附録

式外神

宗像神三座 太政大臣東京一條第坐

祭神明か也○今は廢亡せり○太政大臣は忠仁公也○東京一條は、拾芥抄諸名に、小一條、近衛南、東洞院西師尹家、一云、山吹殿、清和天皇誕生所、貞信公家坤角、有宗像社、又云、華山院、近衛南、東洞院東一町、本名東一條云々、式部卿貞保親王家、貞信公傳、韻之、小一條之間、號之東家、九條殿令給外家、冷泉院此所立坊、花山院傳、名勝志に、花山院家配云、此所往古之靈地、遷都以前之舊第也、聖德太子攝政之時、衆星飛降現于靈石上、其後有宗像大神之告、閑院左大臣冬嗣公居于此、祭宗像大神、小一條宗像是也、貞信公、貞保親王亦居于此、花山院御時、此所爲皇居、自是以小一條號花山

院、京極大殿以此地被進于左大臣家忠、仍家忠公子孫號花山院、世居于此第、帝王稱年應仁大亂爲焦土、亂後拂居其舊地、至于信長公時、猶不改之、近代遷居于土御門內裏東、舊地爲民屋、踏社根元配に、勘由小路宗像社、云々と云る、此社とみえたり

神位

三代實錄、貞觀元年二月晦日丙辰、云々、筑前國宗像神位也、筑前國の下見合へし、太政大臣東京一條第從二位勳八等田心姫神、湍津姫神、市杵島姫神、並授正二位、此六社居雖異、實是同神也、同六年十月十一日甲子、坐太政大臣東京正二位勳八等田心姫神、湍津姫神、市杵島姫神、並進附級加從一位、

神寶 官幣

三代實錄、貞觀七年四月十七日丁卯、內藏頭從五位上藤原朝臣安方、向太政大臣東京第、並奉楯杵御鞍等、諸神記曰、建治二年勘文云、東一條宗像神社三座、元爲式外之神、而去年建治元兼文依勘奏、子細可預四度官幣之由、宣下了、

雜事

土肥、延久元年五月十八日、春宮權大夫其基來語中云、小一條本緣、內麻呂大臣爲三位之時、爲男正六位上冬嗣、自常麻呂是手被買取云々、冬嗣爲內舍人、參內到東洞院近衛御門之間、虛中有聲云、暫留聞、吾者應聲暫留、乃示云、於小一條、買取取件地可居住、福及子孫、我又住此邊爲汝護、有聲無形、隨有怖畏答云、如只今者、無可買取之力、云々、